

## 40 日英交流史と日本語由来の借用語

英語は、多くの言語から語句を取り入れることによって表現を豊かにしてきた。古くは、北欧ゲルマン系の言葉に始まり、ラテン語・ギリシア語やノルマン系フランス語からの**借用語 (loanword/borrowing)**がある。大英帝国時代の植民地の各言語からの借用も盛んに行われた。イギリスが接触・交流したことのある文化からは、必ず何らかの借用があると考えて差し支えない。アメリカ合衆国の成立後は、アメリカ英語からの語彙の流入も甚だしい。

日本とイギリスとの間の交流は意外と歴史が長い。イングランド人 **William Adams** (1564-1620) がリーフデ号で豊後国 (大分県) に漂着したのは1600年のことであり、これは関ヶ原の戦いのあった年である。Adamsは後に徳川家康の旗本として取り立てられ、造船技術者・外交顧問として活躍した。相模国三浦郡逸見 (横須賀市北東部) に采地が与えられた上、**三浦按針**の名乗りを与えられ、帯刀を許されている。

1613年にはイングランド王 **James I** と将軍家康との間で国書が取り交わされ、国交が樹立されている。諸外国との交易の拠点が長崎の出島に移転する前の平戸にはイギリス東インド会社の商館も設けられていた。しかし、その後は双方の国内事情も絡み、この修好関係は間もなく1623年に途絶える。

この後、「開国」を迎えるまで、日英国交は途絶するが、イギリスで日本の情報が皆無になったわけではない。幕府によって交易を許されたオランダを介して日本はヨーロッパに紹介されていた。特筆すべき例は、Engelbert Kämpferの『**日本誌**』(*The History of Japan*) やPhilipp Franz von Sieboldの『**ニッポン**』(*Nippon*)、『**日本植物誌**』(*Flora Japonica*) である。これらの書物 (及びその英訳本) からは、*The Oxford English Dictionary* (以下OEDと略記する) の用例文にも多数引用されており、「鎖国」の時期にも多くの日本語由来の借用語が誕生している。

次にイギリスとの接触があったのは1808年のフェートン号事件である。ナポレオン戦争の最中、イギリス船が長崎の港に侵入し、出島のオランダ商館を襲撃した。これを受けて、イギリス艦艇は警戒の対象となり、1825年には異国船打払令が出され、あらゆる外国船を砲撃して追い返すこととなった。

やがてMatthew C. Perry率いるアメリカ艦隊の来航に始まる「開国」の時代を迎えると、1854年に日英和親条約、1858年に日英修好通商条約が調印され、1859年には初代駐日総領事 **Rutherford Alcock** が江戸高輪の東禅寺に英国総領事館を開設する。所謂「安政の五箇国条約」によって諸外国の外交官や商人が日本に滞在

することとなったのである。英米の外交官たちが本国に送った報告書や、彼らが本国に戻って著した書物などによって日本が紹介され (e.g., Alcock 1863; Perry 1856; Satow 1921), その中には日本語の語句も多く登場する。この時期は、自国文化と異質なものとして日本を紹介することが中心であり、必然的に文化的な借用語が多くなる。この時期には様々な軋轢も生じ、1862年に生麦事件、1864年に下関戦争が勃発している。

戊辰戦争では、イギリスは中立を保ち、幕府を支援するフランスを牽制して、実質的に明治新政府を支援した。この後、日英関係は概ね良好であったが、1886年にノルマントン号事件が発生し、幕末に結んだ不平等条約改正への機運が高まる。1894年の日英通商航海条約により一部撤廃、1911年の同条約改正を以て不平等条約が完全に解消された。1902年には**日英同盟 (Anglo-Japanese Alliance)** が調印され、これを理由に日本は第一次世界大戦に連合国の一員として参戦し、地中海に海軍の巡洋艦を派遣した。

日本と英米を含む諸外国との交流が盛んになり、日本製品が知られるようになると、文化に関する語だけではなく、産業に関する語も少しずつ増えてくるが、まだ「東洋の未開の国」のイメージも強かったようである。本格的に産業に関する語が増えるのは第二次世界大戦後のことで、これは日米間の貿易摩擦など産業・貿易に関する交流が一段と盛んになる時期と一致する。

OEDは英語に取り入れられて使われている語を採録しているので、英語の本来語は勿論のこと、様々な時代の色々な言語からの借用語も多く含まれている。OEDには、469語もの日本語由来の借用語が見出し語として取り上げられている (東京成徳英語研究会 2003, 2004; 土居 2008) が、その初出例は1577年の *Kuge* (公家) である。日本語由来の借用語の意味分野や時代区分からの分析はDoi (2010) に載せているので、ここに再掲することは避けたい。これを見ると、「日本と英語圏との接触」と「その時代の借用語」と「英語圏に於ける日本へのイメージ」の三者は密接に結びついていることが改めて実感される。

最近では、*emoji* (絵文字), *umami* (旨味), *KonMari* (片付けコンサルタント近藤麻理恵氏の名前より「効率よく片付けること」の意) など、様々な日本語が英単語の仲間入りを果たしている (Grunebaum 2017)。また、*futon* を「ソファベッド」の意味で用いたり、*hibachi* が「鉄板焼き」の意味になったりと、様々な語義変化も起きている (土居 2017)。

(土居 峻)